

第 1 回 小栗栖排水機場周辺における浸水被害検証委員会

会 議 次 第

1. 日 時 平成 2 5 年 1 0 月 1 3 日（日）午後 2 時～午後 4 時
2. 場 所 京都市醍醐交流会館（パセオダイゴロー 西館 2 F 第一会議室）
3. 次第
 - （1）開会 （司会 谷口調整管理課長）
 - （2）開会の挨拶 （山田防災・減災担当局長）
 - （3）委員紹介
 - （4）委員長選任
 - （5）議事
 - 議題 1 浸水被害の概要について
 - 議題 2 ポンプ停止による浸水被害の検討条件及び検討結果について
 - （6）閉会の挨拶 （大嶋土木管理部長）
 - （7）閉会

配布資料

- 資料 - 1 小栗栖排水機場位置図
- 資料 - 2 小栗栖排水機場の役割
- 資料 - 3 被害状況及びポンプの稼働状況
- 資料 - 4 ポンプ停止による浸水被害検討条件
- 資料 - 5 ポンプ停止による浸水被害検討結果

小栗栖排水機場周辺における浸水被害検証委員会委員名簿

敬称略・五十音順

氏名	役職等
きたむら 北村 かずお 和生	立命館大学 法科大学院教授 （行政法学）
たちかわ 立川 やすと 康人	京都大学 大学院准教授 （水文学）
なかがわ 中川 はじめ 一	京都大学 防災研究所教授 （河川工学）

小栗栖排水機場位置図



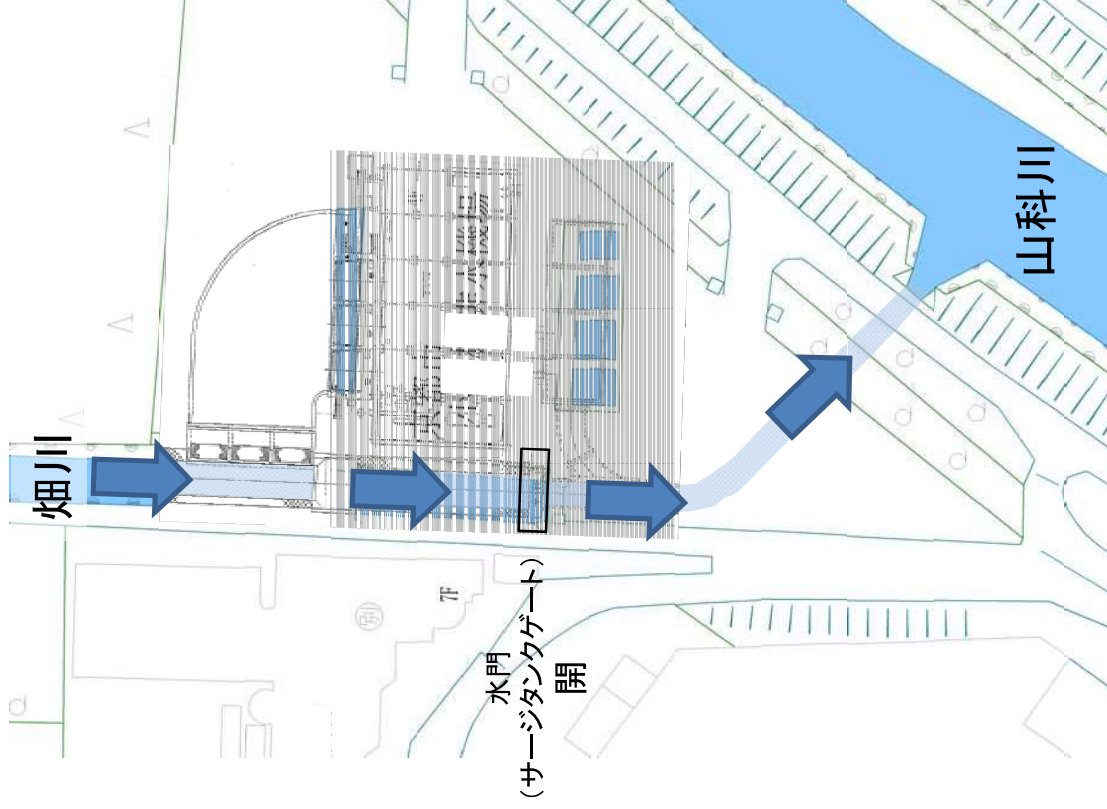
○小栗栖排水機場諸元

- ・設置年月
昭和49年4月
- ・排水量
420 m³/分
- ・ポンプ台数
2台

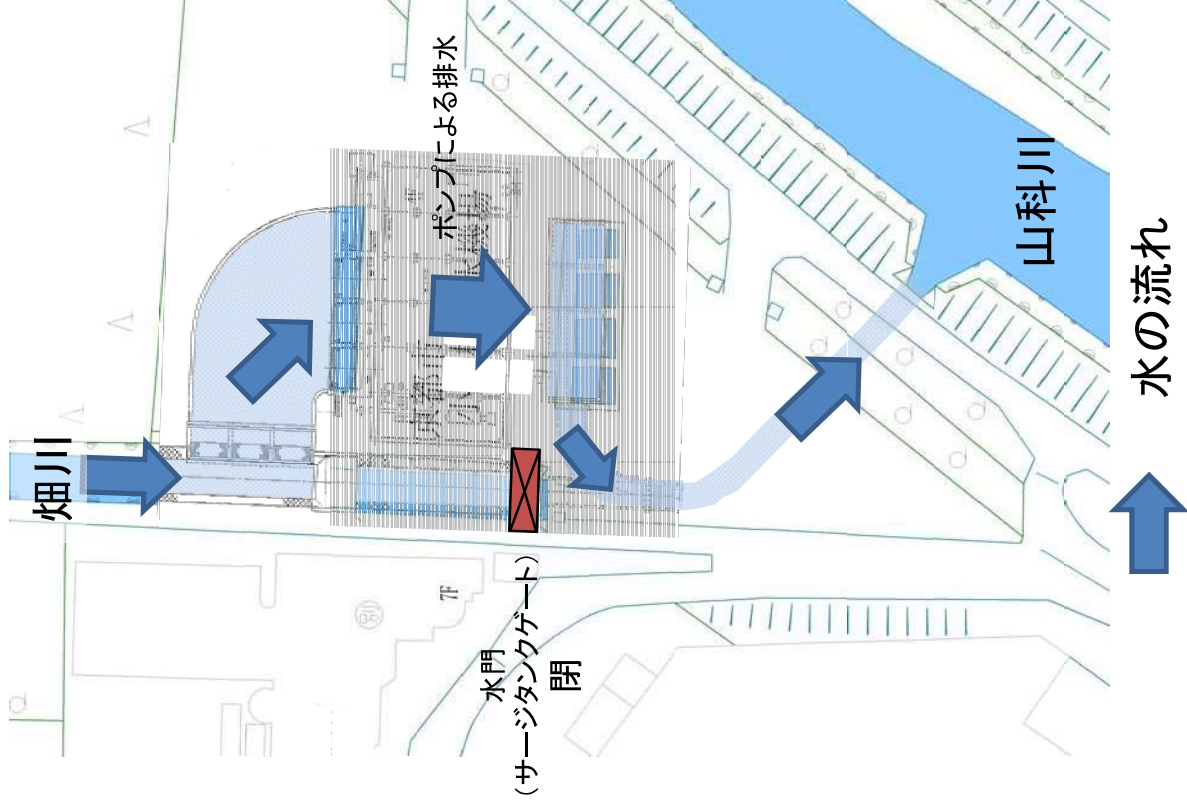
小栗栖排水機場の役割

資料一2

通常時



大雨時



○ 被害状況及びポンプの稼働状況

- ・ 被害状況（10月9日現在）
床上海水 165戸
床下海水 125戸
車 両 約270台（当日山科警察署が確認）

・ ポンプの稼働状況

9月15日	午後8時03分	水位監視 開始
	午後8時25分	運転監視 開始
	午後8時51分	水門閉鎖 1号ポンプ 運転開始
	午後11時22分	2号ポンプ運転開始 (継続運転を実施)
9月16日	午前2時20分	1号ポンプ停止
	午前2時50分	2号ポンプ停止
	午前6時47分	1号ポンプ、2号ポンプ運転再開 (3時間57分間停止)

○ ポンプ停止による浸水被害の解析条件

地目	宅地	水田	畑	池	山地	
流出係数	0.8	0.7	0.6	1	0.7	平均流出係数 0.74
流域面積 (km ²)	0.690	0.057	0.081	0.001	0.791	合計流域面積 1.62

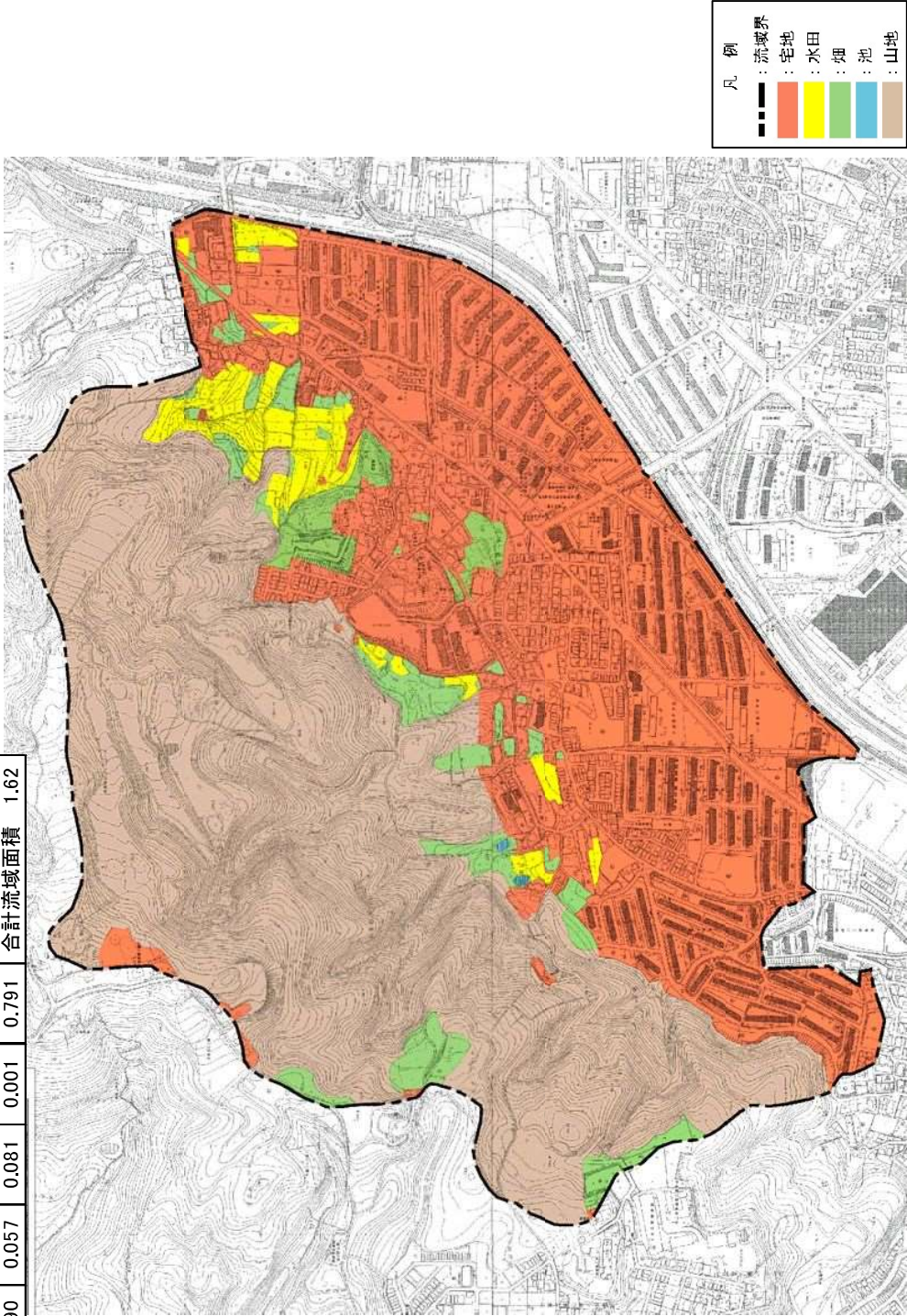


図 1 流域図

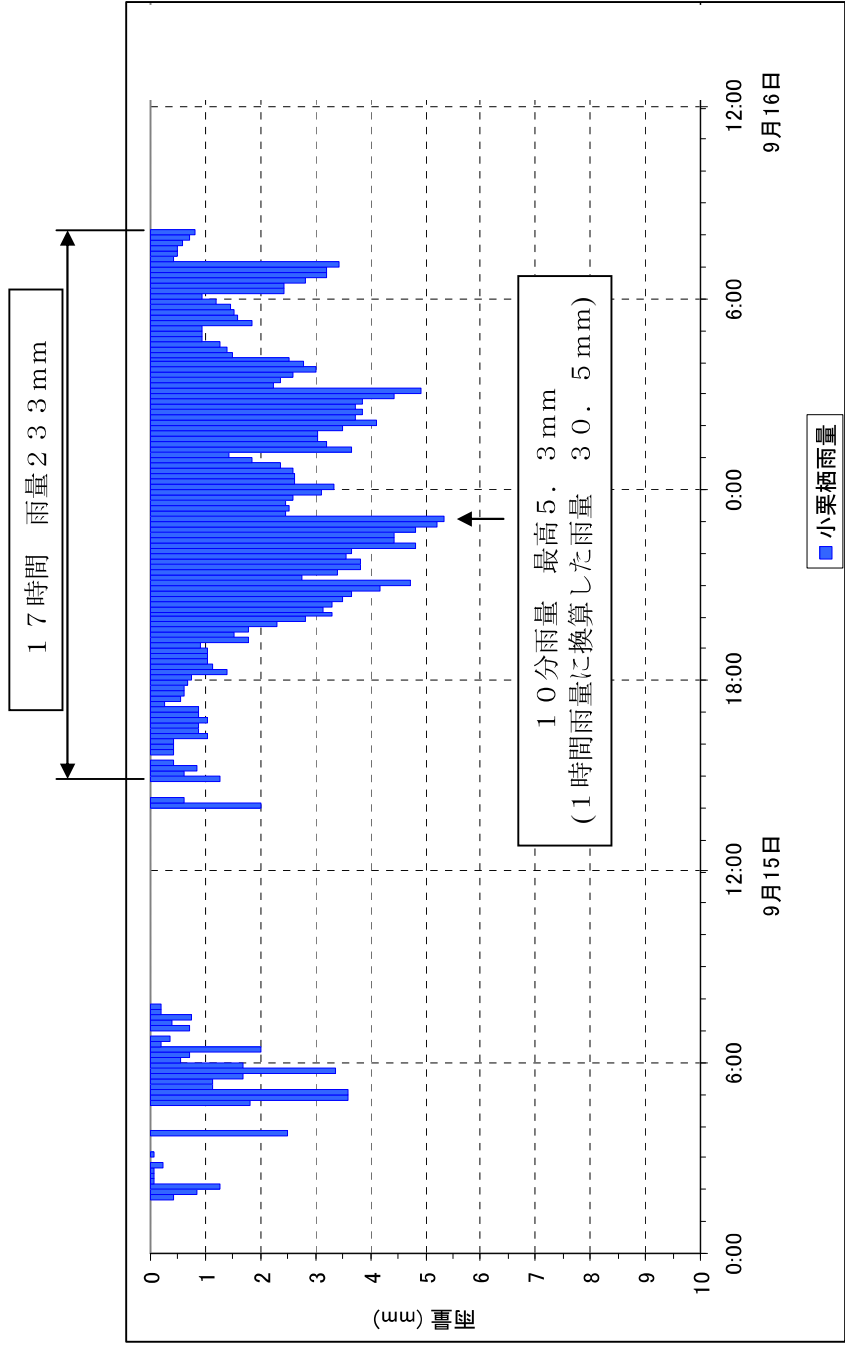


図 2 雨量分布図

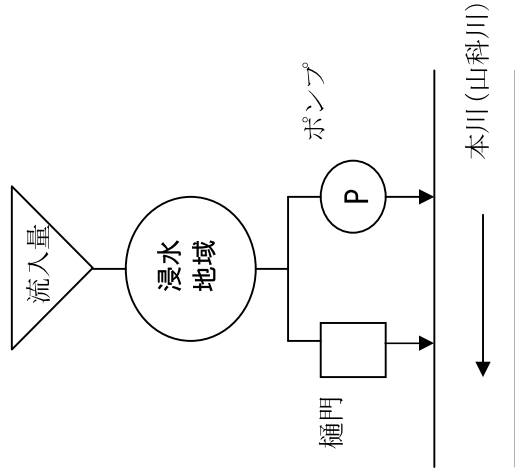


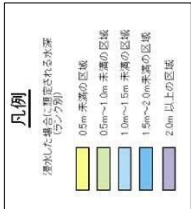
図 3 内水モデル (1 池モデル)

○ ポンプ停止による浸水被害の解析結果

排水ポンプの効果を検証するため3ケースの内水解析を行い、排水ポンプ移動による浸水範囲を推定した。

【内水解析の検討ケース】

- ケース1 ポンプが稼働しないケース
- ケース2 ポンプが実績稼働したケース
- ケース3 ポンプが規則どおり稼働したケース



ケース1 ポンプが稼働しないケース

ポンプが稼働しない状況を想定して内水解析を実施し、内水浸水の範囲の想定を行った。

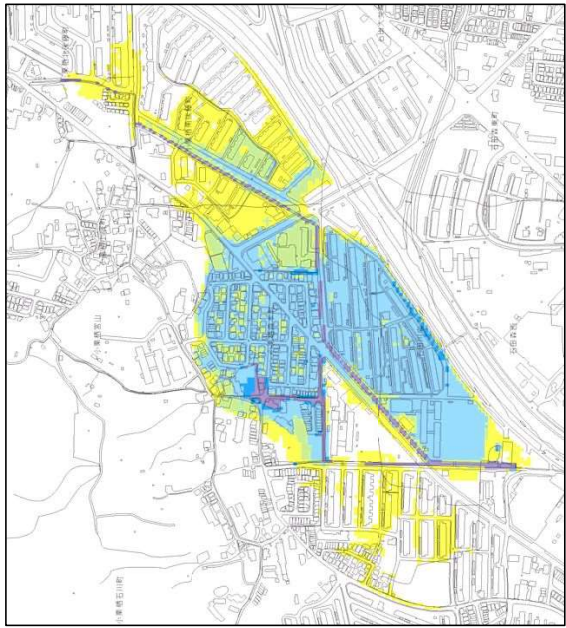


図 ケース1解析結果
(水位高 T. P. 17.4m)

ケース2 ポンプが実績稼働したケース

ポンプが実際に稼働していた実績を踏まえて内水解析を実施し、内水浸水の範囲の想定を行った。

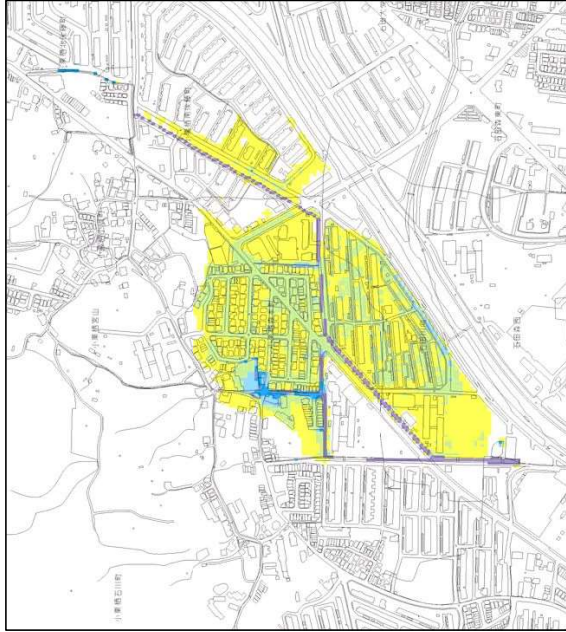


図 ケース2解析結果
(水位高 T. P. 16.8m)

ケース3 ポンプが規則どおり稼働したケース

ポンプの操作規則に則り稼働したケースの内水解析を実施し、内水浸水の範囲の想定を行った。

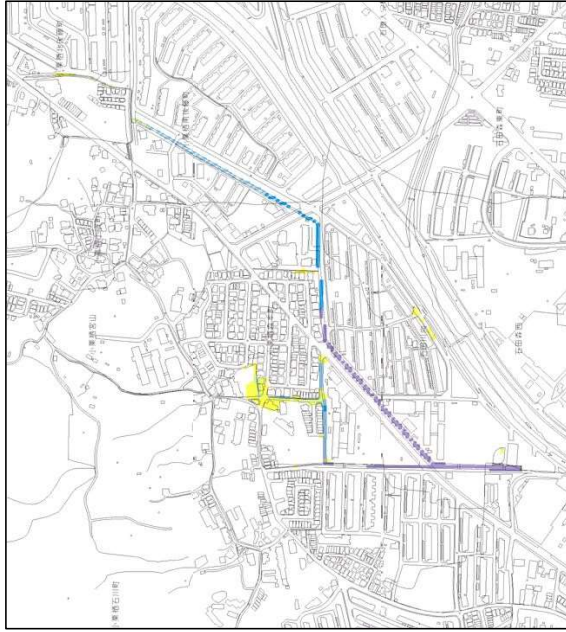


図 ケース3解析結果
(水位高 T. P. 15.7m)